JSET NEWS LETTER
Japan Society for Educational Technology
日本教育工学会ニューズレター NO.212
ISSN 1340-9913

INDEX

新年のご挨拶　教育工学研究の出番が広がる……2
第 31 回通常総会及びシンポジウムのご案内（第一報）……3
日本教育工学会　第 32 回全国大会のお知らせ（第一報）……4
研究会の開催案内「テーマ：ICT を活用した学習支援環境・基盤／一般」……6
研究会の発表募集「テーマ：高等教育における教育方法・FD・IR／一般」……11
今後の研究会のご案内……12
研究会の開催報告……12
2015 年度　日本教育工学会冬の合宿研究会のご案内（最終報）……13
2015 年度　日本教育工学会・産学協同セミナー（最終報）……14
日本教育工学会　特別企画（実践研究活性化）セミナー（最終報）……15
ショートレター増刊号論文募集のお知らせ（最終報）……16
大学教員のためのFD研修会（ワークショップ）のご案内（最終報）……17
SIG 研究会の開催報告　SIG-03 教育・学習支援システムの開発・実践……18
SIG ワークショップの開催報告　SIG-04 教育の情報化……18
SIG ワークショップの開催報告　SIG-07 インストラクショナルデザイン……19
SIG 研究会の開催報告　SIG-08 メディア・リテラシー，メディア教育……19
SIG ワークショップの開催報告　SIG-09 質的研究……20
SIG 研究会の開催報告　SIG-11 情報教育……20
AECT 国際会議に参加して……21
日本教育工学会第 16 期第 5 回理事会　議事録……23
日本教育工学会第 16 期第 6 回理事会　議事録……24
最近の論文投稿数と採択率……25
2016 年度会費納入のお願い……26
2016 年度研究報告集の予約購読（年額 3,500 円）について……26
第 31 回全国大会講演論文集の購入について……26
新入会員……27

事務局●〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル8階
TEL 03-5549-2263
FAX 03-5575-5366
日本教育工学会ホームページ http://www.jset.gr.jp
e-mail:office@jset.gr.jp

新年のご挨拶　教育工学研究の出番が広がる

日本教育工学会会長　山西潤一（富山大学）

新しい年を迎え，それぞれに教育・研究への新たな思いを広げられていることと思います．学校教育から高等教育，ひいては地域創成のための地域人材づくりに至るまで，アクティブ・ラーニングというキーワードが目立つこの頃です．昨年 11 月に全米教育工学研究大会に参加しましたが，ここではアクティブ・ラーニングという言葉とともに，インテンショナル・ラーニングというキーワードも飛び交っていました. 新しい学習指導要領の改定にあたっての視点でも，学習内容はもとより，どのように学ぶか，その結果として何ができるようになったかなど，アクティブ・ラーニングとともに，カリキュラム・マネジメントや学習評価の充実があげられています．どれも，新しい時代に必要な資質・能力をどう育てるかという問題です．近い将来，コンピュータ等の情報技術の進歩で，分野によっては，ロボットや知的情報システムが人に代わって仕事をする時代になり, 今ある職業の 6 割以上がなくなると予想する研究者もいます．そのような時代を生きる児童生徒に，自立的問題解決能力や他者との協働，ICT などの道具を上手に活用する力が求められているのです．

第 2 期教育振興基本計画の目標を達成すべく，教育の IT 化に向けた環境整備も進んできています．いつでもどこでもインターネットに繋がるユビキタスな学習情報環境，一人一台がようやく現実のものとなってきたタブレット PC など，学校での ICT 活用がようやく日常になってきつつあります．もとより，教育工学研究は，学習環境，学習内容やカリキュラム開発，教材開発・教育方法，高度な指導力を持った教員の養成に関わる多様な研究分野を包摂しています．情報技術の進歩やグローバル化が進めば進むほど，教育工学研究の出番が広がるのです．昨年 9 月には，学会のグローバル化戦略として AECT との学術交流協定を締結し，米国で日本の教育工学研究を紹介する場が広がりました．また，今年は，グローバル化の中で教育改革に取り組むアジア諸国で，教育工学研究がどんな役割を果たせるかを考えるシンポジウムも企画されています．

次代に向けた教育改革の歩みが加速される中で，教育イノベーションをリードする学会として，本年も，会員の皆様とともに充実した活動を展開して行きたく思います．皆様のご支援，ご協力をよろしくお願い申し上げます．

第 31 回通常総会及びシンポジウムのご案内（第一報）

日時　2016 年 06 月 18 日（土）10:00～16:00（受付 09:30 より）
会場　大阪　マーチャンダイズビル　http://www.omm.co.jp/　（New Educational Expo2016 会場）

10:00～12:20　ラウンドテーブル「アジアと連携する教育工学研究」

ICT を活用した授業，規律正しい生活，学級という文化など，日本の教育経験を活用し，アジアの国々の教育水準を高めていくことは，グローバル時代の教育工学研究者に求められる重要な課題であるといえる．教育工学研究者はアジアの国の教育を改善していくためにどのような協働ができるのだろうか．本シンポジウムでは，カンボジア，タイ，フィリピンの三カ国から研究者を招き，それぞれの国の教育の現状を報告してもらい，今後日本の教育工学研究者とどのような協働ができるか，その可能性を探る．

講　　演　「日本の教育経験とアジアの現状」文部科学省
登 壇 者　Ferdinand Pitagan（フィリピン大学）
　　Thanomporn Laohajaratsang（チェンマイ大学）
　　Oum Ravy（カンボジア大学）
指定討論　日本教育工学会会長　山西潤一（富山大学）

12:20～13:20　総会
第 1 号議案　事業報告及び収支決算承認の件
第 2 号議案　事業計画案及び収支予算案承認の件

14:00～16:00　シンポジウム「世界・アジアをつなぐ ICT 教育の実践」

本シンポジウムでは，アクティブ・ラーニング理論など AECT からの研究者の講演を参考にしながら，アジアの次の連携を論議する．これまで海外の学校と協働して，新しい教育実践を行っている学校の教師や学生を招いて，国際交流学習の可能性と課題について発表してもらい，教育のグローバル化を図るための手立てを探る．

講　演　「ICT 活用と学習理論」　ロバート・ブランチ博士（AECT 前会長）
登壇者（グローバル・ハイスクール,WYM 参加校）
　　神戸大学附属中等教育学校
　　立命館大学中学高等学校
　　WYM 幹事校（日本福祉大学）

日本教育工学会 第 32 回全国大会のお知らせ（第一報）

日本教育工学会第 32 回全国大会を，下記のように大阪大学豊中キャンパスにおいて開催します．多くの方々の研究発表・ご参加をお待ちしています．

1. 開催期日・会場

期日：2016 年 09 月 17 日（土）～19 日（月・祝）
会場：大阪大学豊中キャンパス 全学教育推進機構 〒565-0871 大阪府豊中市待兼山町 1−16
http://www.osaka-u.ac.jp

2. 大会日程

09 月 17 日（土）	09 月 18 日（日）	09 月 19 日（月）
08:15～17:00 受付 09:00～11:00 一般研究発表 1 International Session1 （口頭発表） 11:10～12:30 一般研究発表 2 （ポスター発表） チュートリアルセッション 12:30～14:00 昼食，理事会 企業ランチセッション 14:00～15:20 一般研究発表 3 （ポスター発表） 15:30～18:00 SIG セッション 1	08:30～17:00 受付 09:00～11:40 一般研究発表 4 International Session2 （口頭発表） 11:50～13:10 一般研究発表 5 （ポスター発表） 13:10～14:10 昼食，各種委員会 14:10～15:10 全体会 （表彰，会長講演） 15:10～17:40 シンポジウム 18:00～20:00 懇親会	08:30～15:00 受付 09:00～11:00 一般研究発表 6 （口頭発表） 11:10～13:10 一般研究発表 7 （口頭発表） 13:10～14:10 昼食 14:10～16:40 SIG セッション 2 16:50～ 大会企画委員会
09:00～16:00 企業展示	08:30～14:10 企業展示	

＊ プログラム編成によっては，時間帯が若干変わることもあります．
＊ 企業展示が 1 日目，2 日目に開催されます．ぜひ見学にお立ち寄り下さい．
＊ 初日昼休みには，無料ランチ付きの企業ランチセッションを開催します．
＊ ワークショップは大会初日の前日 09 月 16 日（金）に開催することを検討しています．

託児所の提供について

今大会においても，大会期間中，託児所を提供する予定です．詳細は検討中です．

3. 各セッションについて

（1）シンポジウム

内容は検討中です．詳細は後日お知らせいたします．

（2）SIG（Special Interest Group）セッション

SIG は，年間を通じて現代的教育課題に対する研究を深める時限付きのグループです．発表原稿や発表方法は SIG によって異なります．実施方法の詳細は，ニューズレター第二報（5 月発行予定）および大会 Web サイトでお知らせいたします．

（3）一般研究（口頭発表とポスター発表）

一般研究発表は，口頭発表とポスター発表に分かれます．昨年と同様に，口頭発表とポスター発表の時間帯は分かれています．どちらの発表も同じ一般研究発表であり，口頭発表とポスター発表に質的な優劣はありません．発表目的に合わせてご選択ください．ポスター発表者は，発表セッションの時間帯は，ポスター前で説明及び討論に従事しなければなりません．

（4）International Session（口頭発表）

International Session は，一般研究の口頭発表の時間帯に開催されます．International Session の発表及び質疑応答は英語で行われます．

（5）チュートリアルセッション

本学会の活動内容について，例えば教育工学選書や SIG 活動などの紹介をいたします．詳細は後日お知らせいたします．

（6）ワークショップ

ワークショップは，参加者が設定した教育工学に関連するテーマについてインフォーマルに語りあう場です．実践は進んでいるものの研究として認識されていない問題や，新しい情報技術の教育利用などの萌芽的な研究について議論を行っていただくことを考えております．ワークショップは，主催者主導で進行していただきます．プログラム集には，ワークショップテーマ名・主催者/共催者名・概要が掲載されます．大会論文集へ原稿は掲載されません．

テーマは公募します．議論を通じて，教育工学に関心を持つコミュニティが作られ，発展していくことを期待しています．積極的なご応募をお待ちしております．

ワークショップの日程は，大会初日の前日 09 月 16 日（金）の 16:00 から 18:00 を予定しております．詳細は，後日お知らせいたします．

応募のスケジュール：

06 月 02 日（木）～06 月 23 日（木）　ワークショップ テーマ受付期間

06 月 30 日（木）ワークショップ テーマ決定（採否結果を通知します）

応募方法・応募先：

電子メールにて，ワークショップ主催者と共催者の氏名，ご所属，メールアドレス，ワークショップ名と概要（300 字程度）を大会企画委員会ワークショップ担当（taikai2016-ws@jset.gr.jp）までお送りください．

なお，件名は「ワークショップ応募」としてください．

4. 大会までのスケジュール

06 月 02 日	木	ワークショップ　テーマ受付開始 ＊SIG セッション発表申込書・プロポーザル（2～4 ページ）提出
06 月 23 日 17:00	木	ワークショップ　テーマ受付締切 ＊SIG セッション採択決定通知
06 月 30 日	木	ワークショップ　テーマ決定
07 月 05 日 17:00	火	発表者の参加費事前送金締切（クレジットカード払い，郵便振替共に） 一般研究発表／International Session 申込書・原稿（2 ページ）提出 ＊SIG セッション発表原稿（2～4 ページ）提出 ※17:00 が最終締切時刻となります．原稿の差し替えは，07 月 12 日 17:00 までは Web 上で可能です（電子メールによる差し替えは認められません）．
07 月 12 日 17:00	火	提出原稿の差し替え締切（17:00 厳守）
08 月 23 日	火	発表者以外参加費等事前送金期限（クレジットカード払い，郵便振替共に）

＊発表原稿や発表方法は SIG によって異なります．実施方法の詳細は，ニューズレター第二報（5 月発行予定）および大会 Web サイトでお知らせいたします．

5. 宿泊について

学会期間中の宿泊施設の斡旋はいたしません．各自でホテルのご予約をお願いいたします．

日本教育工学会研究会　http://www.jset.gr.jp/study-group/

研究会の開催

テーマ　ICT を活用した学習支援環境・基盤／一般
●日　　時：2016 年 03 月 05 日（土）
●会　　場：香川大学幸町キャンパス南 1 号館
（〒760-0016 香川県高松市幸町 1 番 1 号）
●担　　当：八重樫理人（rihito@eng.kagawa-u.ac.jp）

プログラム　　発表時間：発表 1 件につき 24 分（発表 19 分，質疑 5 分）

A 会場（第 21 講義室），B 会場（第 22 講義室），C 会場（第 23 講義室），D 会場（第 24 講義室），E 会場（第 31 講義室），F 会場（第 32 講義室），G 会場（第 34 演習室），H 会場（第 41 演習室）

09:55-10:00　**諸連絡**

10:00-12:05　**午前の部**

A1）アクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教員研修の改善と評価
加地真弥，根本淳子，仲道雅輝，小林直人（愛媛大学），関田一彦，望月雅光（創価大学）

A2）アクティブラーナー水準アセスメントの開発に向けた質問紙調査の分析結果の報告
酒井浩二，藤田大雪，小澤千昌，乾明紀，阿部一晴（京都光華女子大学），
山下仁司（ベネッセ教育総合研究所）

A3）クイズの作問・回答が学習者に及ぼす影響の比較調査
竹内俊彦（東京福祉大学／教育テスト研究センター），加藤尚吾（東京女子大学／教育テスト研究センター），加藤由樹（相模女子大学／教育テスト研究センター）

A4）小学校社会科における児童の興味・関心を高めるための学校放送番組活用に関する事例研究
中嶋宏輔，深見俊崇（島根大学）

A5）相互評価において匿名でのコメントや投票が受講者に与える影響－相互評価支援システムを用いた基礎的情報教育の実践－
金子大輔（北星学園大学）

B1）新聞情報を活用した社会的課題の発見と解決の能力の開発
武田亘明（札幌市立大学）

B2）問題解決力の育成を意識した情報リテラシー科目の改善案の検討－2014・15 年度の実践をふまえて－
小杉直美（北翔大学），松田稔樹（東京工業大学大学院），玉田和恵（江戸川大学）

B3）情報モラル遵守行動における他者行動予測に関する心理実験的検討
田中孝治（北陸先端科学技術大学院大学），園田未来（関西大学大学院），
池田満（北陸先端科学技術大学院大学），堀雅洋（関西大学大学院）

B4）協働作業を伴う演習科目への反転授業導入手法の検討
永田奈央美（静岡産業大学），植竹朋文（専修大学）

B5）情報科で育成すべき資質・能力のモデル化とそれに対応したゲーミング教材テンプレート
小川諒大，松田稔樹（東京工業大学大学院）

C1）教員志望学生の学習評価力量の向上に資する講義の検討
深見俊崇（島根大学）

C2）若手教員を育成する主任教諭育成プログラムの提案－リフレクションの手法を用いて－
羽賀絹恵（帝京大学大学院），荒巻恵子（帝京大学大学院／東京大学大学院），
向山行雄，小関礼子（帝京大学大学院）

C3）マインドストームを活用した小学校プログラミング教育の実践と評価
鶴田翔平（東京学芸大学），山地義廣（中央区立城東小学校），
北澤武，田嶌大樹（東京学芸大学）

C4）高等学校における授業「道徳」の現状と課題
稲葉節生，石ヵ友規，吉江森男（常磐大学）

C5）新人看護師を対象とした失敗体験研修コースの開発
杉浦真由美（早稲田大学大学院），向後千春（早稲田大学学術院）

D1）高校数学「課題学習」の指導の体系化を意図した教育実践研究
森脇雄，松田稔樹（東京工業大学大学院），
岡本敬，早坂健（東京工業大学附属科学技術高等学校）
D2）数学教育にキャリア教育を融合させた「事業計画立案」ゲーミング教材の開発と評価
沼崎公平，松田稔樹（東京工業大学大学院）
D3）算数科指導困難領域における指導方略に関する研究
手嶋香（鳴門教育大学大学院），藤村裕一，大平和哉，竹口幸志（鳴門教育大学）
D4）意味構造の把握に着目した算数文章題の指導に関する研究
永藤理裕（東京学芸大学大学院），和田正人（東京学芸大学）
D5）大学生に見られる高校数学教育の影響
渡部禎郎，根上生也，山本光（横浜国立大学大学院）

E1）小テストの出題方法とテスト接近・回避傾向を考慮したタブレット端末とスマートフォンによる正答率の比較分析
北澤武（東京学芸大学／教育テスト研究センター）
E2）初学者向けプログラミング教育におけるインタラクティブな動画教材に関する研究
松居健太郎（東京電機大学大学院），高野辰之（関東学院大学），
小濱隆司，宮川治（東京電機大学）
E3）プログラミング演習における入力過程とコンパイルエラーに関する分析
堀川千遥（東京電機大学大学院），高野辰之（関東学院大学），
小濱隆司，宮川治（東京電機大学）
E4）教授者の位置を用いた机間指導支援システムの開発
原川翼（東京電機大学大学院），高野辰之（関東学院大学），小濱隆司，宮川治（東京電機大学）
E5）シナリオベースのモバイル学習システムを用いた野外における避難訓練学習の実践とその評価
畠山久（首都大学東京／東京工業大学大学院），永井正洋（首都大学東京），
柴山愛（日本大学桜丘高等学校），室田真男（東京工業大学大学院）

F1）ICT 環境が整備された附属学校における教育実習生の ICT 活用授業の実施状況
藤井善章，森下孟，村松浩幸，谷塚光典，東原義訓（信州大学学術研究院）
F2）タブレット端末の持ち帰りによる自主学習の変容
稲垣忠（東北学院大学），土屋利恵子，住谷徹，中垣眞紀（ベネッセ教育総合研究所），
大関健道（野田市立みずき小学校）
F3）タブレット必携化による学習成果の可視化
田中洋一，前田博子，澤崎敏文，平塚紘一郎（仁愛女子短期大学）
F4）PowerPoint による能動的な学びを支援する思考ボードの開発と活用
古川健一（福岡教育大学）
F5）児童のドリル学習の定性的分析による個に応じた評価システムの検討
今野貴之（明星大学），北村美穂，入川深雪（大日本印刷），中川一史（放送大学）

G1）教職 e ポートフォリオにおける相互コメントに見る教職志望学生の成長
谷塚光典（信州大学学術研究院／熊本大学大学院），東原義訓（信州大学学術研究院），
喜多敏博，戸田真志，鈴木克明（熊本大学大学院）
G2）e ポートフォリオを活用した学習における相互評価活動の効果
伊藤明裕，森本康彦，北澤武，宮寺庸造（東京学芸大学）
G3）ポートフォリオの実践とメタ認知的知識・活動の育成
狩野紀子（拓殖大学），舟生日出男（創価大学）
G4）中学校理科における自作デジタルノートを活用した学習環境のデザインと実践
福田克也，倉留天翔（福岡教育大学大学院），古川健一（福岡教育大学）
G5）金沢工業大学における教職ポートフォリオの現状と課題
伊藤大輔，木村竜也，白木みどり（金沢工業大学）

H1）初中等教育のプログラミング教育支援システムのデザインの検討
太田剛（放送大学大学院），森本容介，加藤浩（放送大学）
H2）位置情報を利用したゲーム形式のインフォーマルラーニング支援のための教育用アプリケーション
王博宇，唐霏爾（九州大学大学院），金子晃介（九州大学附属図書館），
山田政寛（九州大学教育院），岡田義広（九州大学附属図書館）
H3）大学におけるロケーションベースの英単語学習ゲームデザインの検討
唐 霏爾，王博宇（九州大学大学院），金子晃介（九州大学附属図書館），合田美子（熊本大学），
岡田義広（九州大学大学院／九州大学附属図書館），
山田政寛（九州大学大学院／九州大学教育院）
H4）網羅的な記録を用いたプログラミング学習過程の分析
近藤秀樹（九州工業大学），石田竹至，小出洋（九州工業大学大学院）
H5）プログラミング演習における教員と学生間での理解困難箇所共有システムの構築
中島美彩子，豊田哲也，大原剛三（青山学院大学）

13:05-13:10　委員会挨拶・諸連絡
13:10-15:15　午後の部①

A6）中学生に対するアカデミック・ライティング指導過程における発表活動が論文内容に及ぼす影響の検討
登本洋子（玉川学園高等部／東北大学大学院），後藤芳文，伊藤史織（玉川学園高等部），
河西由美子（鶴見大学），堀田龍也（東北大学大学院）
A7）スタディスキル科目における方略活用の分析
市川尚（岩手県立大学），鈴木克明（熊本大学大学院）
A8）学生と教員がともにつくる協働のための教室環境と協調のための ICT システム
河波春花，佐野湧太，三家拓也，須佐琴李，竹島由梨，咲花昭嗣，
遠藤敏喜（自由学園最高学部）
A9）学習者の特性が協同学習中の発言行動に与える影響の分析
中村雅子，西森年寿，前迫孝憲（大阪大学大学院）
A10）特別活動指導法における教員養成学部生の学級通信づくりの相互評価分析
森下孟，伏木久始，谷塚光典，東原義訓（信州大学学術研究院）

B6）高校教師が教育改善を目的とした学習共同体へ参画するプロセスに関する研究
時任隼平（関西学院大学），寺嶋浩介（大阪教育大学）
B7）質的・量的研究のトライアンギュレーションによる検討－中学校の特別活動における集団参加意識の研究－
中澤美乃（帝京大学大学院），荒巻恵子（帝京大学大学院／東京大学大学院），
岡山貴洋，坂本薫，三石初雄（帝京大学大学院）
B8）教職大学院でのマルチボーカル法を用いた授業研究－ビジュアルエスノグラフィーによる体育科授業の検討－
山崎光弘（帝京大学大学院），荒巻恵子（帝京大学大学院／東京大学大学院），
三浦公平，岩井典江，斎藤佳子（帝京大学大学院）
B9）グラウンデッドセオリーアプローチを用いたフォトランゲージの評価手法に関する研究
増山一光（県立神奈川総合産業高等学校）
B10）研究室配属方法の違いによる学生の研究室選択に関する実証的検証
長嶋匠，須藤佑介，岡田啓（東京都市大学）

C6）グループ討議をより効果的に展開するためのジェネリックスキルを活用した ICT 学修支援環境の構築と実践
二瓶裕之，西牧可織（北海道医療大学）
C7）無線モジュールを用いた TVML による対話練習環境に関する検討
柏木治美（神戸大学），澁谷恵美，康敏，大月一弘（神戸大学大学院）

C8）議論を通した意見集約に見られる問題点の分析
北村雅則（南山大学短期大学部），山口昌也（国立国語研究所）
C9）日本教育工学会全国大会のポスター発表における発表者と聴講者の意識分析
江木啓訓（電気通信大学），稲葉利江子（津田塾大学），渡辺雄貴（東京工業大学），
尾澤重知（早稲田大学学術院）
C10）共通レポートを用いた相互評価における他者評価の正確性と理解度との関係
木下涼（早稲田大学），藤原康宏（兵庫医科大学），永岡慶三（早稲田大学）

D6）ゼミ活動を大学教育の中心に－SMS：統合ゼミ活動支援システムの提唱と開発状況－
永岡慶三，米谷雄介（早稲田大学学術院）
D7）プレゼンテーション能力の自主的・自律的向上を促進する SMS(統合ゼミ活動支援システム)機能の試行
木宮愛美，下津佐紅子（早稲田大学），米谷雄介，永岡慶三（早稲田大学学術院）
D8）裸眼 3D 視線一致型テレビ会議システムを用いた遠隔サッカー指導効果の検証
嶋田啓太（早稲田大学），島村理紗子（共立女子大学），米谷雄介（早稲田大学学術院），
谷田貝雅典（共立女子大学），永岡慶三（早稲田大学学術院）
D9）裸眼 3D 視線一致型テレビ会議システムを用いた遠隔スポーツ指導におけるスポーツオノマトペの効果
千嶋崇（早稲田大学），橋場杏奈（共立女子大学），米谷雄介（早稲田大学学術院），
谷田貝雅典（共立女子大学），永岡慶三（早稲田大学学術院）
D10）授業導入が容易な PowerPoint アドイン型オーディエンスレスポンスシステムの改良と評価
川島陽一郎，室田真男（東京工業大学大学院）

E6）教育情報ナショナルセンターのメタデータデータベースの再利用
榎本聡（国立教育政策研究所）
E7）Praat と Moodle を連携させた英語発音指導システムの構築
平塚紘一郎，野本尚美（仁愛女子短期大学）
E8）問題解決に活用可能な高校「データ分析」の知識及び見方・考え方のモデル化と教材開発
合田智一，松田稔樹（東京工業大学大学院）
E9）著作権を視野に入れた ICT 環境の整備と学習支援の考察
長澤慎哉（稲城市立若葉台小学校）
E10）四国地区 5 国立大学間の e-Learning コンテンツと第三者著作物への利用許諾に関する考察
吉田明恵，陣内恭子，根本淳子，田中寿郎，村井礼，
林敏浩（大学連携 e-Learning 教育支援センター四国）

F6）情報教育における生徒の自己評価に対する一分析
出井智子，耒代誠仁（桜美林大学教育院）
F7）STEM 各教科で自己学習力を育成するためのゲーミング教材テンプレートの設計
松田稔樹（東京工業大学大学院）
F8）情報モラル教育における形成的評価のために感情状態の変化を捉える試み－感情に着目したイメージマップ・テスト（IMT）の分析を通して－
堤優子（関西大学大学院），黒上晴夫（関西大学）
F9）メディア・リテラシーにおけるクリティカル分析と社会的認知－映画・ドラマ比較における外国人に対する社会的距離とイメージへの影響－
和田正人（東京学芸大学）
F10）消費者教育につなげるメディア・リテラシー教育に関する考察-－テレビ CM を題材とした教材開発と試行－
横室宏紀（早稲田大学大学院），三尾忠男（早稲田大学学術院）

15:30-17:35　午後の部②

A11）学生のキャリアストーリー構築を支援するゲーム教材の高等教育における実践と評価
福山佑樹，木村充（東京大学）
A12）数理科目における反転授業の授業デザイン
西誠（金沢工業大学）
A13）メタ認知による文章題解決についての研究－中学生を対象としたメタ認知能力と文章題の関係性－
守谷真一，清水優菜，山本光（横浜国立大学大学院）
A14）数学の学習における学習動機と学習観，学習方略，問題解決方略の関係－大学生を対象とした分析－
清水優菜，守谷真一，山本光（横浜国立大学大学院）
A15）中学校の理科教育における対話による理解を妨げる要因についての分析
野口聡（関西大学大学院），田中雄也（寝屋川市立第八中学校）

B11）「教育方法及び技術」にかかわる一考察－幼児教育への枠組みの適用－
波多野和彦（江戸川大学），中村佐里（自由学園女子部），三尾忠男（早稲田大学）
B12）教えることについての態度尺度作成と Big Five 性格特性との関連
早坂昌子（早稲田大学大学院），向後千春（早稲田大学学術院）
B13）生徒の自己選択・自己決定を生かす指導法の検討－就業技術科における実践から－
昼間友彦，坂本薫，砥柄敬三，田村順一（帝京大学大学院），神田基史（帝京大学）
B14）シラバス分析による授業形態分類方法の開発
重田勝介（北海道大学），松河秀哉（大阪大学），松田岳士（首都大学東京），
渡辺雄貴（東京工業大学），加藤浩（放送大学），八木秀文，永嶋知紘（北海道大学）
B15）オンライン学習コンテンツの変速提示効果に関する一分析
長濱澄（早稲田大学大学院），野島健（早稲田大学），森田裕介（早稲田大学学術院）

C11）Google ドキュメントを利用したレポート作成過程の分析（２）
宮本淳，仙石昌也，山森孝彦，久留友紀子，橋本貴宏（愛知医科大学）
C12）クラウド型学習支援システム Google Classroom を活用した授業実践
倉掛崇（日本福祉大学）
C13）SNS による協働学習と適応学習支援システムの開発・運用および検証
河野碧，市川昌宏（株式会社 電通国際情報サービス）
C14）高校生による教育用 SNS を利用した協調的問題解決の特徴－発話数・議論内容・課題成績に着目して－
菅井道子，堀田龍也，和田裕一（東北大学大学院）
C15）小学校における遠隔協働授業の研究要件
中川斉史（三好市立下名小学校）

D11）授業・学習支援用と危機管理対策支援用の２つの目的で導入した LMS 利用の５年間
坂田信裕，山下真幸，上西秀和，坂東宏和（獨協医科大学）
D12）ｅラーニング科目における受講ペースと成績との関連
竹生久美子（放送大学大学院），辻 靖彦（放送大学）
D13）動画ファイルによる学生製作物レポート提出方法の検討
淀優介，堀内泰輔，宮崎敬，田中則幸（長野工業高等専門学校）
D14）ウェアラブルサーバによるグループ学習分析システムの開発
成重拓哉（神戸大学），江木啓訓（電気通信大学／神戸大学）

E11）成人の自己調整学習方略尺度の開発および方略間の影響関係の分析
石川奈保子（早稲田大学大学院），向後千春（早稲田大学学術院）
E12）オンライン大学での学び直しを選択した社会人学生の入学時の期待価値と入学後の努力との関連
鈴木伸子（早稲田大学大学院），向後千春（早稲田大学学術院）

E13）なぜ大学がカフェイベントを行うのか？－大学主催サイエンスカフェにおける実施背景と課題を手がかりに－
森玲奈（帝京大学）
E14）グループウェアを用いた社会人学生向けオンライン専門ゼミの発言構造
中村康則，川上祐子（早稲田大学大学院），向後千春（早稲田大学学術院）
E15）研究室配属方式の違いに関する研究－シミュレーションを用いて－
須藤佑介，長嶋匠，岡田啓（東京都市大学）

F11）看護師養成における情報教育の授業実践
岡本尚志（聖徳大学）
F12）ICT 研修ファシリテーター養成講座の評価－チェックリストによる評価－
脇本健弘（横浜国立大学），稲垣忠（東北学院大学），寺嶋浩介（大阪教育大学），
中橋雄（武蔵大学），島田希（高知大学），堀田龍也（東北大学），坂口真（日本放送協会）
F13）小学校算数における ICT 活用の方法と効果に関する研究－小学校 4 年生算数「立方体の展開図はいくつあるか？」－
二石芳裕（本郷サイエンステクノ株式会社），上岡学（武蔵野大学）
F14）三重保育パーク設置に向けた展望－ICT を活用した保育士環境支援－
神谷勇毅（鈴鹿大学短期大学部）

● 発表時間：当研究会は会員・非会員による討論の場を作ることを目的として開催してきました．討論時間を確保するために，持ち時間 24 分において質疑応答の時間を 5 分以上は確保していただいております．よろしくご理解願います．

● 参加費用：参加費は無料です．研究会報告集の年間予約購読代金（3,500 円）を支払済みの本学会会員以外の方は，報告集代として 1,000 円を当日受付にてお支払いください（**ただし，本研究会受付時に年間予約購読代金の支払済みが確認できない場合には，当日受付にて年間予約購読分の報告集をお渡しすることができませんのでご了承ください**）．また，当日受付にて年間予約購読の申込みも可能です．なお，年会費には研究会報告集の年間購読代金は含まれておりません．

● 交通案内：JR 高松駅から車で約 5 分です．「ことでんバス（市民病院ループバス）」で「香川大学教育学部」または「香川大学法学部・経済学部」下車，徒歩 1 分です．詳しくは，香川大学ホームページの「アクセス」（http://www.kagawa-u.ac.jp/access/saiwai/）をご参照ください．

● 昼食案内：昼食時間帯のみ学内の食堂（11:00～14:00）が営業されます．また，大学周辺にはうどん屋など飲食店がありますが，土曜日が定休日のお店もありますのでご注意ください．

● 情報交換会のご案内：研究会終了後，香川大学生協にて情報交換会を開催する予定です．情報交換会については別途ご案内いたします．

研究会の発表募集　　テーマ：高等教育における教育方法・FD・IR／一般

●日　　時：2016 年 05 月 21 日（土）　●会　　場：大阪大学豊中キャンパス（担当：大山牧子）
●申込締切：2016 年 03 月 22 日（火）17:00　●原稿提出：2016 年 04 月 21 日（月）17:00

●募集内容：
本研究会は，SIG-01「高等教育・FD」と SIG-11「情報教育」との合同で開催されます．SIG-01 では，近年，アクティブ・ラーニングや反転授業といった学生中心型の新しい教育方法，IR や学修成果の可視化などに注目が集まっていることを踏まえて，高等教育における様々な教育方法や教育改善に関する実践研究をテーマにした発表を募集します．
LINE 等での仲間はずれやネットいじめ等の問題は未だ沈静化していない様子です．また家庭用ヒューマノイドロボットを快適に扱うためには，すべての人々がプログラミングに関する能力を身につける必要があります．そこで，SIG-11 では，ネットいじめや情報モラル，情報リテラシー，プログラミングなどをテーマにした発表を募集します。
また，従来どおり，上記テーマに限らず教育工学一般の発表も募集します．

●申込方法：研究会 Web ページよりお申し込みください．なお，**締切日時は“平日 17:00”までになりましたのでご注意ください．**
●原稿執筆：締切後 1 週間以内に，申込時に登録されたメールアドレス宛てに発表の採択結果と執筆要項をお送り致します．
●原稿提出：原稿の提出は PDF 形式で，研究会 Web ページの「発表申込フォーム」より，発表申込時に発行された「受付キー」を使用してご登録ください．なお，期限までにご提出いただけない場合は，自動的に発表取消となりますのでご注意ください．

今後の研究会のご案内

月日	テーマ	会場	申込締切※	原稿提出締切※
2016 年 07 月 02 日（土）	未定	鳴門教育大	05 月 02 日（月）	05 月 31 日（火）
2016 年 11 月 05 日（土）	未定	宮崎大	09 月 05 日（月）	10 月 03 日（月）
2016 年 12 月 17 日（土）	未定	仁愛女子短期大	10 月 17 日（月）	11 月 14 日（月）
2017 年 03 月 04 日（土）	未定	信州大	01 月 05 日（木）	02 月 06 日（月）
2017 年 05 月 20 日（土）	未定	広島市立大学	03 月 21 日（火）	04 月 17 日（月）

※ **締切日時が平日 17:00 に変更**：
2015 年 07 月研究会（JSET15-3）から発表申込および原稿提出締切日時は“**平日** 17:00”に変更となりましたのでご注意ください．

年間予約購読のお勧め

●年間購読：研究会報告集の年間予約購読価格は郵送料込みで 3,500 円です（当日売りは 1 冊 1,000 円と割高になります）．研究会の受付でも年間講読を受け付けております．

研究会の開催報告

●日　　時：2015 年 12 月 12 日（土）　●会　　場：新潟大学
●発表件数：37 件　●参加者数：75 名（内非会員 26 名）

北風と鉛色の空に包まれる冬の時期に新潟での研究会開催となりましたが，幸いにも当日は晴天に恵まれ 75 名の皆様を新潟にお迎えすることができました．今回は「学校の教育力向上に資する実践研究／一般」というテーマで開催されました．先生方ご自身のお立場で展開されている多様な教育実践に基づいた研究発表が多く，質疑での活発な意見交換が見られました．教師の力量形成，ICT を活用した教育環境デザインなど，教育工学の実践研究に相応しい質の高い発表を契機に「教育を少しでも良くしたい」と願う先生方の議論と交流が活性化したのではないかと考えております．研究会にご参加いただきました皆様はじめ，関係各位に深く御礼申し上げます．

担当：澤邉　潤（新潟大学）

2015 年度　日本教育工学会冬の合宿研究会のご案内（最終報）

テーマ　「実践研究のデザイン　ー実践を研究に，研究を実践に活かすー」

■ 趣旨

実践現場と連携した実践研究は教育工学において重要な研究領域です．現在，さまざまな研究者が実践現場と連携した研究を行っています．

しかし，研究のデザインは個々の教育現場の状況や研究者との関係によって変化します．

そこで冬の合宿研究会では，「実践研究のデザイン」をテーマにした研究会を開催します．実践現場の課題をどのように捉え，どのように関わり，研究としてまとめていくのか，それによって得られた研究内容をどのように現場で活用するのかについて，実践者，研究者とのディスカッションの中から整理していきます．また，後半では現場の課題をもとに具体的な研究デザインを考えるワークショップを企画していきます．

■ 日　程　2016 年 02 月 20 日（土），21 日（日）

■ 定　員　30 名　まだ，余裕があります．奮って応募してください．
定員に達しましたら締め切らさせていただきます．

■ 講　師　村川雅弘（鳴門教育大学）

■ 対象者　学校教育に関わる実践者，研究者，若手研究者や大学院生，その他

■ 会　場　鳴門教育大学

■ 参加費　1,000 円

■ 宿泊

・宿泊は，ホテル「鳴門海月（http://narutokaigetsu.jp）」13,000 円（朝・夕食付き）税別となります．
・部屋は，相部屋となります．
・宿泊せずに情報交換会のみ参加の場合は，別途情報交換会費 4,000 円を徴収させていただきます．
・鳴門教育大学からホテルまでは，送迎あり．
・徳島空港から鳴門教育大学までは，バス送迎を予定（一往復分）．希望の有無確認．
・宿泊費および情報交換会費は，当日現地にて現金にて徴収します．

■ 申し込み

日本教育工学会 Web ページからお願いいたします．
（https://www.jset.gr.jp/study2/201602.html）

■ スケジュール（予定）

・2016 年 02 月 20 日（土）

12:00〜13:00	受付
13:00〜13:20	趣旨，スケジュール説明
13:20〜14:30	講演：村川雅弘先生
14:30〜15:30	グループワーク 1：実践研究の課題共有
15:30〜15:45	休憩
15:45〜17:30	課題の共有・ディスカッション
17:30〜18:00	宿泊先へ移動
18:00〜19:00	休憩
19:00〜	情報交換会

・2016 年 02 月 21 日（日）

08:00〜	朝食・移動
09:00〜10:30	グループワーク 2：研究計画の立案
10:30〜11:30	共有・全体ディスカッション
11:30〜12:00	まとめ
12:00	プログラム終了

■ 問い合わせ先

泰山裕（鳴門教育大学）　ytaizan@naruto-u.ac.jp

2015 年度　日本教育工学会・産学協同セミナー（最終報）

テーマ：
デジタル教材・学習記録の規格標準化の動向と今後
教育工学の立場から学習記録データの活用を考える

■ 趣旨

我が国としても教育改革が進み，2020 年を目標に 21 世紀型の学びへと大きく変わろうとしています.

今後は学習者中心の主体的，協働的な学びと変化していく中で ICT を活用した学習活動が増え，そこで蓄積された学習記録データを分析することで，学びの質や方法の改善，評価につながることが期待されています. 特に学習記録データを分析・解析・活用していくための「学習ビッグデータ分析（LA：Learning Analytics）」が注目され, デジタル教材や学習履歴に関する国際標準化は急速に進んでおり，標準化団体でのワーキング・グループや研究学会の新規設立などの動きが活発となっております．日本国内でも近年これらの標準化に向けて産・官・学での動きが盛んになり検討が進んでいます.

今回の産学協同セミナーでは，デジタル教材や学習記録データの国際標準化，学習記録データによる学習解析，研究学会の状況，学習理論からみた活用の意義について情報共有をするとともに，今後アクティブ・ラーニングなどの「学習者が主体的に取り組む学習者中心の学び」の中での学習記録データの必要性について考えるとともに，現時点での課題を明確にし，デジタル教材や学習記録データの標準化の在り方や，集め方，解析の方法等，蓄積されたビッグデータの活用方法について，産・学それぞれの立場から幅広く議論を展開したいと考えます.

こうしたテーマに関心を抱く，多くの方のご参加をお待ちしていますので，まずは日程のご案内をさせていただきます.

■ 日　時　2016 年 03 月 26 日（土）13:30～17:00　（受付開始 13:00）
■ 会　場　株式会社内田洋行　新川オフィス（ユビキタス協創広場 CANVAS）
東京都中央区新川 2-4-7（http://www.uchida.co.jp/company/corporate/bases_1.html）
■ 参加費　無料
■ 定　員　100 名 ※先着順で締め切らせていただきます.
■ 主　催　日本教育工学会 企画委員会
■ お申し込み方法　下記にある申込みフォームよりお申し込みください.（02 月 01 日より申込み開始）
http://www.uchida.co.jp/seminar/160326/index.php
■ セミナープログラム

13:00 開場　13:30 開始　17:30 終了予定

【第一部】

1. 趣旨説明 企画委員会
2. 講演Ⅰ「デジタル教材等の規格標準化の意義と動向」
   下川和男 氏　日本電子出版協会　副会長（イースト株式会社社長）
3. 講演Ⅱ「学習ビックデータ分析の意義と最新動向」
   田村恭久 氏　上智大学　理工学部情報理工学科　教授
4. 講演Ⅲ「学習記録データの活用が教育を変える」
   森本康彦 氏　東京学芸大学　情報処理センター　准教授

【第二部】

5. パネルディスカッション
   第一部でのデジタル教材や学習記録データの国際標準化, 学習記録データによる学習解析，研究学会の状況，学習理論からみた活用の意義の発表を受けて，今後の教育現場での学習記録データの必要性を共有するとともに現時点での課題を明らかにし，今後のデジタル教材や学習記録データの標準化の在り方や，集め方，解析の方法等，蓄積された学習記録データの活用方法について，産・学それぞれの立場から幅広く議論を展開する.

コーディネータ：山西潤一 氏（富山大学 教授 日本教育工学会 会長）
パネリスト：
田村恭久 氏（上智大学 理工学部情報理工学科 教授）
下川和男 氏（日本電子出版協会 副会長　イースト株式会社 社長）
森本康彦 氏（東京学芸大学 情報処理センター 准教授）

■ 問い合わせ先　産学協同セミナー事務局（株式会社内田洋行内）
Email:kyouiku2@uchida.co.jp
※尚，今後の詳細については日本教育工学会 Web ページをご参照ください.

日本教育工学会　特別企画（実践研究活性化）セミナー（最終報）

日本教育工学会特別企画（実践研究活性化）委員会
委員長　村川雅弘（鳴門教育大学）

教育工学の知見を学校現場に還元していくと共に，教育実践に基づく研究及びその成果の発信に関してのセミナーを平成 26 年度より開催しています．昨年度は約 30 名の現場教師，大学院生，指導主事，大学教員が集い，学校や教育センター等の研究・研修計画を持ち寄り，教育工学的な視点からの助言・協議を行いました．昨年度のセミナーによる改善プランを今年度に実施したという報告も受けています．

今回は第 2 回目です．大学院や教職大学院等で教育現場をフィールドとして実践的な研究を計画・実施されている方あるいは指導されている方，学校現場において研究主任等として中心的に取り組まれている方，あるいは学校現場を対象として研究的な立場でかかわっておられる方，教育センター等で研修を企画・運営されている方等々のご参加をお待ちしています．

日時：平成 28 年 03 月 13 日（日）10:00～16:00
会場：岐阜大学サテライトキャンパス「多目的講義室」
（JR 岐阜駅前・岐阜スカイウイング 37　東棟 4 階　http://www1.gifu-u.ac.jp/~gifu_sc/src/）
定員：40 名
申込：今野貴之（明星大学）takayuki.konno@meisei-u.ac.jp
メールで，①氏名，②所属，③メールアドレス，④ワークショップでの実践研究計画の簡単な紹介，を 03 月 06 日（日）までにお知らせください．ワークショップでの資料は 03 月 09 日（水）までにメールでお送りください．④については，A4 版 1～2 枚とします．また，④の書式は研究会の原稿見本（https://www.jset.gr.jp/study-group/files/jset-study-group-format140301.pdf）を参考に作成した PDF 原稿としてください．ただし，英文でのタイトル・氏名・所属は不要です．
昼食：JR 岐阜駅ビル内 ASTY 岐阜・ACTIVE-G の飲食店をご利用いただけます．
ASTY 岐阜：http://www.nsk-eki.com/asty/gi1f.html
ACTIVE-G：http://active-g.co.jp/rest-cafe/
日程：（予定）

1. 10:00～10:10　**開会・挨拶**
2. 10:10～11:10
パネルディスカッション：「教育工学の知見を学校現場にどう還元しているか」
村川雅弘（鳴門教育大学）・三橋功一（北海道教育大学）
小柳和喜雄（奈良教育大学）・寺嶋浩介（大阪教育大学）
大学院や教職大学院，学校現場，教育センター等で長年研究指導を行ってきた本学会の研究者が，教育工学のどのような知見をどう還元しているのかを熱く語り合います．
3. 11:20～12:00　**参加者全員による自己紹介を兼ねた研究・研修計画の紹介**
研究・研修計画の紹介内容を受けて，午後のチーム編成を行います．
4. 13:00～15:00
ワークショップ：「教育実践研究構想の練り上げワークショップ」
大学院生や教職大学院生または研究主任，指導主事等に，平成 28 年度に実施する予定の実践研究計画や研修計画を可能な範囲で持参していただきます．チーム内（6 名程度，研究者が必ず 1 名入る）において紹介し，計画の立て方やデータの集め方・分析の仕方等について意見や助言を出し合ってまとめます．
計画紹介と練り上げワークショップ（チーム内の各事例紹介及び協議・助言 20 分×5 件程度）
5. 15:10～15:40　**全体発表**（5 分×6＝30 分：各チームから代表 1 事例の成果）
6. 15:40～16:00　**総括・閉会**

ショートレター増刊号論文募集のお知らせ（最終報）

日本教育工学会論文誌　　vol.40, Suppl.の発行

論文受付締切：2016年04月01日（金）

日本教育工学会論文誌vol.40, Suppl.は，年1回発行されるショートレターの増刊号です．奮ってご投稿下さい．

投稿規定に記述しているように，以下のようになっていますのでご注意下さい．

1. ショートレターは，教育工学に関する，実践的な研究成果，新しい試みやその結果等，教育システム開発等を記述したもの．新規性（オリジナリティ）は必ずしも高くなくても，実践研究の方法と成果を明確に記述したものです．
2. 刷り上がり4ページ厳守です（4ページを超えるものは採録しない）．
3. 筆頭著者（ファースト・オーサー）は本学会会員であることが条件です．あるいは，筆頭著者が投稿時に入会手続きおよび会費納入等をすることが必要です．なお，各会員はショートレターを年1編に限り投稿できます．
4. 2016年12月に発刊の予定です．
   ショートレターの内容については，例えば，以下のような内容が考えられます．

・全国大会や研究会で発表した内容をまとめたもの
・教育システム開発や教育実践をベースにした実践と知見をまとめたもの
・教育工学研究としての速報的な内容
・卒業論文や修士論文等としてまとめた内容，など

なお，ショートレターとして掲載されたものを一層充実させて，論文あるいは資料としての条件を満たすように記述したものは，論文あるいは資料に投稿できます．

ページ数が限られていることから，タイトル，著者，内容については十分厳選の上，ご執筆下さい．

特に，ショートレターの趣旨から，多人数の連名著者はさけて下さい．研究全体がプロジェクトチームによる共同研究であっても，実際にショートレターの限られた内容に直接携わり，執筆した研究者にして下さい．

ショートレターの査読日程予定
（2016年度）：
04月　担当及び査読者の指名
05月　編集委員会で査読進捗状況の確認
07月　編集委員会で採録，返戻の第1回決定
09月　編集委員会で採録，返戻の第2回決定
10月　最終原稿の提出
11月　著者校正
12月　ショートレター増刊号発行予定

投稿の仕方：

原稿は，「投稿規程」と「原稿執筆の手引」（http://www.jset.gr.jp/thesis/index.html）に従って執筆し，学会ホームページの会員専用Webサイトより電子投稿して下さい．会員のIDとパスワードが必要です．

投稿論文は電子投稿でのみ受け付けています．

問い合わせ先：
日本教育工学会事務局
電子メール：short@jset.gr.jp
Tel/Fax：03-5740-9505

大学教員のためのＦＤ研修会（ワークショップ）のご案内（最終報）

この研修会は，日本教育工学会がこれまでの知見を活用し，大学教育の授業改善や教員の授業力向上へ寄与しようと，2008 年度から実施されているものです．大学教員や大学教員を目指す学生などを対象としています．本研修会の修了要件を満たした方には学会より認定書を発行し，本研修を修了したことを証明します．本年度の研修内容は，2011 年度から好評である内容を踏襲し，「大学授業デザインの方法－1 コマの授業からシラバスまでー」をテーマに開催いたします．今回も事前学習用コンテンツを用意し，e-ラーニングと対面研修の組み合わせにより行うことで，当日の活動を，ご要望が多かった，参加度を高めた構成（反転研修）にします．また，昨年度までの FD 研修会修了者向けのファシリテーター研修も併せて実施する予定です．

企画：SIG-01（高等教育・FD），SIG-07（インストラクショナルデザイン）

■ テーマ：「大学授業デザインの方法－1 コマの授業からシラバスまでー」
■ 内容：参加者それぞれが授業実践事例を持ち寄り，ワークショップ形式で行います．授業のデザインに関する問題意識の明確化，授業のデザインに関する情報・課題の共有などから議論を始め，「何を誰に教えようとしているのか」，「どんな方法で教えるのか」，「続けたい点・変えたい点は何か」などをグループで議論しながら授業の改善案を考えていきます．

■ 日時：2016 年 03 月 07 日（月）　13:00～17:45：FD 研修
（ファシリテーターとしてご参加される方は，09:30～12:00 のファシリテーター研修及び上記の FD 研修にご参加いただきます）
■ 会場：東京工業大学大岡山キャンパス（東急目黒線，大井町線「大岡山」より徒歩 1 分）
■ FD 研修の定員：30 名（申し込み着順で，定員になり次第，締め切ります）
■ コーディネータ：根本淳子（愛媛大学），渡辺雄貴（東京工業大学），岩崎千晶（関西大学），村上正行（京都外国語大学），市川　尚（岩手県立大学），高橋暁子（徳島大学）
■ 担当副会長：鈴木克明（熊本大学）

■ 参加費：2,000 円（学会員），3,000 円（学会員以外）
（参加費の支払い方法は，参加確定後，お申し込みの方に個別に連絡します）
■ 認定書：研修会終了後に最終レポートを提出した修了生には，日本教育工学会から認定書が授与されます．
■ 幹事：渡辺雄貴（東京工業大学）・高橋暁子（徳島大学）
■ 申し込み：http://www.jset.gr.jp/work/work160307.html にアクセスし，方法を確認して，お申し込みください．
※ファシリテーター研修は定員に達したため申し込みを締め切りました．
上記からは登録しないでください．

◆【お問合せ先】　渡辺雄貴　E-mail： fd-staff@jset.gr.jp

○ 準備物：高等教育機関において授業実践を行っている参加者は，自分の授業のシラバス，授業資料（スライド，プリント，板書ノートなど）など，授業に関する資料を 6 部持参してください．学生等で未だ高等教育機関において授業実践を行っていない，もしくは今後実施する予定の参加者は，実施することを想定した授業デザインに関する資料を 6 部持参してください．

○ 情報交換会：セミナー終了後，2 時間程度の情報交換会を予定しております．参加者のみなさま同士や登壇者との有意義な情報交換や FD セミナーへのご意見・ご要望などをお聞かせいただく場としてご活用いただければと考えております．

SIG 研究会の開催報告　SIG-03 教育・学習支援システムの開発・実践

第 3 回 SIG 研究会
●月　日：2015 年 12 月 12 日（土）～13 日（日）
●会　場：岩室温泉　富士屋（新潟県）　　参加者数：16 名
●プログラム
　▽12 月 12 日（土）　グループワーク：学習データの共有・分析
　▽12 月 13 日（日）　グループワーク：学習データの共有・分析
　　ディスカッション：若手研究者発表

第 3 回研究会では，近年意欲的な研究が進められている Learning Analytics に関連して，様々な性質の学習データを共有・分析できる形で持ち寄ってのグループワークを実施しました．事前に参加者に対して，匿名化などを行った学習データの提供を呼びかけて，寄せられた 3 機関からの学習データを配布しました．研究会では，ログやアンケートデータをどのような観点から分析するかを議論しました．提供元の参加者からの状況説明を交えつつ，分析ツールを用いて実際に集計と可視化を行いました．食事や温泉でリフレッシュしつつ夜遅くまで分析を続け，翌日の発表では充実した成果報告を聞くことができました．

この研究会では，組織を越えて学習データを共有することの難しさ，学習データやその説明だけでなく実践の文脈を共有することの必要性などが明らかになり，Learning Analytics の共同研究における課題を整理することができました．今回提供いただいた企業と大学の関係者に感謝いたします．共同研究の推進や産学連携などを念頭に，本 SIG を分析できる学習データを持ち寄れる場にしたいと考えています．

第 4 回研究会は 2016 年 03 月 19 日（土）から 21 日（月・祝）にかけて，大分県の別府湾ロイヤルホテルで開催します．1 泊からでも参加できますので，ぜひ密度の高い議論と交流の機会にご参加ください．

担当：江木啓訓（電気通信大学）

SIG ワークショップの開催報告　SIG-04 教育の情報化

第 3 回ワークショップ
●月　日：2015 年 12 月 13 日（日）
●会　場：新潟大学　　参加者数：25 名
●テーマ：「タブレット端末が拓く新しい学び」
●プログラム
　▽ワークショップ①：情報活用能力調査（文科省）を読み解いてみよう！　豊田充崇（和歌山大学）
　▽ワークショップ②：タブレット活用本音トーク　　稲垣　忠（東北学院大学）
　　話題提供：片山敏郎（新潟大学教育学部附属新潟小学校）
　　小庄司一泰（新潟市立小針小学校）
　　藤田真実（上越教育大大学院）
　　森下耕治（光村図書）

新潟大学において 12 月 12 日に開催された日本教育工学会研究会の翌日，SIG-04 では第 4 回研究会を行いました．ワークショップ①：情報活用能力調査（文科省）を読み解いてみよう！では，豊田充崇 SIG 代表がコーディネータとなり，情報活用能力調査の問題を実際に解いてみるワークショップを取り入れ，分析結果と今後求められる実践について議論しました．調査結果は膨大なものですが，ポイントをおさえたクリアな解説で，大変分かりやすかったと好評でした．ワークショップ②：タブレット活用本音トークでは稲垣忠会員のコーディネートにより総合的な学習の時間（片山敏郎教諭），理科（小庄司一泰教諭），英語（藤田真実さん）の発表と，リレー型の小グループでのディスカッションが行われ，密度の濃い交流ができました．その後，森下耕治会員から光村図書で開発中のデジタル教科書を素材とした総合討論が行われました．タブレット活用の課題と可能性について，実践に裏打ちされた議論を深めることができたように思います．3 月には情報モラル教育をテーマとし，和歌山大学においてワークショップを開催の予定です．

担当：後藤康志（新潟大学）

SIG ワークショップの開催報告
SIG-07 インストラクショナルデザイン

第 1 回ワークショップ
●月　日：2015 年 10 月 31 日（土）　15:05～17:05
●テーマ：「学習者のやる気を引き出そう：ARCS モデル勉強会」
●会　場：岩手県立大学　　参加者数：18 名
●プログラム
　▽ARCS モデルとは？（解説・ミニグループワーク）
　▽ARCS モデルを用いた事例分析演習（グループワーク）

SIG-07（SIG-ID）では，初のワークショップ開催となりました．ARCS モデルの理解を深めることを目的とし，日本教育工学会研究会（15-4）終了後に実施しました．ARCS モデルは学習意欲を A:注意・R:関連性・C:自信・S:満足感の 4 つの側面で捉え，分析・設計・評価などに役立つモデルです．参加者は，見学を含めた 18 名で，そのうちの 16 名が 4 グループに分かれて課題に取り組みました．ARCS モデルを知っている方々も多くいたために，受付で参加者の申告も踏まえて初級・中級・上級者に分け，混成でグループを組んでもらいました．はじめに，ARCS モデルを理解いただくために，解説資料を読んでもらい，ARCS のクイズを解き，その答えをグループ内で検討してフィードバックを行いました．その後，仮想事例（ある授業の概要と抱える問題を示したもの）を提示し，ARCS モデルに基づいて授業の改善案をグループで検討してもらいました．グループワークでは，ARCS モデル上級者主導のもとで積極的な議論がなされ，多様な改善案が提示されました．アンケート結果から，参加者の ARCS モデルへの興味・関心の高まりがみられ，授業改善に利用したいとの感想も頂戴しました．また，SIG-ID へは認定制度の要望などが挙げられました．今後も学会員が ID について理解を深める機会を提供していく予定です．ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます．

担当：市川　尚（岩手県立大学）

SIG 研究会の開催報告　SIG-08 メディア・リテラシー，メディア教育

第 1 回研究会
●月　日：2015 年 12 月 19 日（土）
●会　場：東京学芸大学　　参加者数 55 名
●テーマ：「メディア・リテラシー研究の蓄積と広がり」
●プログラム
　▽研究交流（1）「メディアとのつきあい方学習実践研究会の取り組み」高橋伸明（笠岡市教育委員会）
　▽研究交流（2）「ルネ・ホッブス氏のメディア・リテラシー研究について」和田正人（東京学芸大学）
　▽講演「10 代からの情報キャッチボール入門　使えるメディア・リテラシー」下村健一

第 1 回の研究会には，55 名の方に参加していただくことができました．研究者やメディア業界の方々と共に，学校現場で実践に取り組まれる方々や学生のみなさんも多く参加してくださいました．まず，研究交流セッションにおいては，高橋伸明先生から「メディアとのつきあい方学習実践研究会の取り組み」について，和田正人先生から「ルネ・ホッブス氏のメディア・リテラシー研究」についてご報告いただき，参加者と議論しました．様々なアプローチで蓄積されてきた研究知見を交流させることで，これから個々に行われる研究に活かされるようなアイデアが生まれました．次に，ゲストとしてお招きした元 TBS ニュースキャスターの下村健一先生からは，「10 代からの情報キャッチボール入門　使えるメディア・リテラシー」という演題でご講演いただきました．メディアの読み解きと表現・発信のあり方を考える方法について具体的な事例を示しながら解説していただきました．今回の研究会を通じて，知と知がつながり，新たな知のネットワークが形成されました．今後の研究会では，それをさらに広げていくことができればと考えています．第 2 回研究会は，2016 年 02 月 27 日（土）に熊本大学で開催される予定です．

担当：中橋　雄（武蔵大学）

SIG ワークショップの開催報告　SIG-09 質的研究

第 1 回ワークショップ
●月　日：2015 年 12 月 05 日（土）　13:00-16:00
●テーマ：「質的研究の第一歩を踏み出す」
●会　場：関西大学千里山キャンパス　　参加者数：23 名
●プログラム
　▽講演：「質的研究の基本的な考え方」および「質的研究のプロセスの実際」
　▽演習：「質的研究のための研究計画を立てよう」

第 1 回ワークショップでは，これから質的研究を行おうと考えている方を対象として，質的研究の基本的な考え方やリサーチクエスチョンに関するワークショップを行いました．本ワークショップには，大学院生や研究者，中学校や高校の現職教員，看護・医療関係者，大学事務職員など 23 名にご参加いただきました．前半では，質的研究に関する基本的な考え方について久保田賢一先生（関西大学）が講演をしました．また，質的研究で博士論文を執筆された山田嘉徳先生（関西大学）に，質的研究の詳細なプロセスについてお話いただきました．後半では，参加者の研究のフィールドにおいてどのような質的研究ができるか，4〜5 名のグループに分かれ議論を行いました．本ワークショップを通じて，質的研究がこれまで焦点を当てられなかった学習や学習に関連する諸要因に注目することを参加者間で共有しました．

02 月 22 日からは，教育工学における質的研究を学ぶために，4 回連続でセミナーを実施します．第 1 回目セミナー（02 月 22 日）は，佐伯胖先生との「教育工学における一人称研究」，第 2〜4 回目セミナー（02 月 23 日〜26 日）では，箕浦康子先生との「教育工学における観察を通した研究の技法」です．詳細は，質的研究 SIG-09 のホームページをご覧の上，参加希望の方は JSET のホームページからお申し込みください．

担当：山本良太（東京大学）

SIG 研究会の開催報告　SIG-11 情報教育

第 1 回／第 2 回 SIG 研究会
●月　日：2015 年 11 月 07 日（土）／11 月 29 日（日）
●会　場：山形大学　基盤教育院 1 号館 2F
●プログラム
　▽11 月 07 日（土）　10:00〜17:00
　　テーマ：「AI 時代に必要な情報教育のカリキュラムについて 〜pepper も参加予定〜」
　　下記，話題提供と情報教育カリキュラムに関するディスカッション
　　1）　AI 時代に必要な教育とは　　加納寛子（山形大学）
　　2）　ロボットを用いた小学校でのカリキュラムと指導　　齋藤　聡（三川町立東郷小学校）
　　3）　情報教育カリキュラムのレビュー　　安達欣也（中山町立長崎小学校・山形大学大学院）
　▽11 月 29 日（日）　10:00〜17:00
　　レゴマインドストームでロボット組み立てプログラミングを行い，授業設計の課題について議論した．

第 1 回の研究会においては，齋藤聡氏から，小学校 5・6 年生が自分たちの作りたいロボットを企画し作製する実践事例について報告していただいた．また，安達欣也氏からは，情報教育カリキュラムのレビューを行っていただいた．加納寛子氏からは，人工知能が搭載されたロボットやドローンなどは規制する動きが見られるけれど，規制を厳しくしたところで犯罪は水面下に潜るだけで本質的な解決にはならない．人工知能が社会生活のあらゆる所に普及する時代に必要な教育について話題提供を行った．午後は，既に情報教育カリキュラムは多数あるが，新しい時代に相応しい情報教育のカリキュラムについて検討した．

第 2 回の研究会においては，レゴマインドストームのジャイロボーイの組み立てを行った．センサーのプログラミングは，わずかな誤差でも作動しない．ロボットの組み立ては，特に教えなくても何とかなりそうだが，プログラミングは系統立てて教えることが必要であろうという情報教育の課題が示唆された．

担当：加納寛子（山形大学）

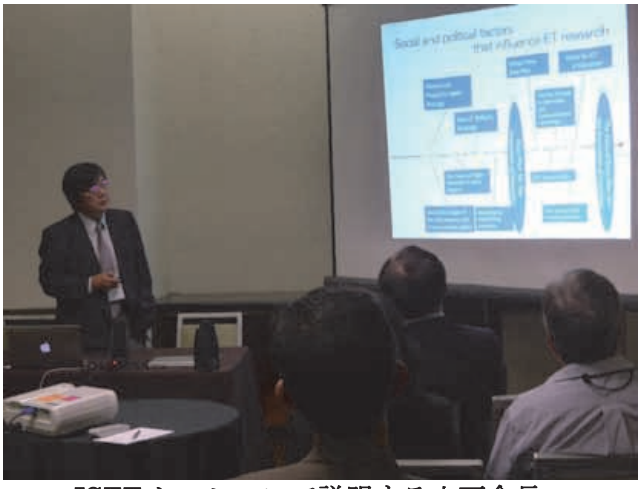
AECT 国際会議に参加して

AECT2015 の国際会議がインデアナポリスで 2015 年 11 月 03 日（火）より 07 日（土）に開催された．学会の国際化対応の一環で，2015 年 09 月，米国 AECT（Association for Educational Communications and Technology）と学術交流協定を締結. 締結後最初の同国際学会に, 学会を代表し, 山西会長，鈴木副会長と国際交流委員会の影戸の 3 名が参加し，JSET セッションの立ち上げと AECT と連携する各国教育工学会との交流を図った.

今年度の同学会参加人数は 1,140 名, 海外参加者 110 名（アメリカの大学院に在籍する留学生は除く）で，参加国約 20 ヶ国であった.

JSET との連携として，今年度，2015 年 09 月 23 日の JSET 第 31 回全国大会で同学会の会長 Dr.Branch のセミナーや，2014 年 09 月の国際シンポジウムでの Dr.Harmon 会長（当時）の登壇も記憶に新しいところである．この流れを受けて，AECT での連携セッションが開催された.

JSET 連携セッション： 山西会長（富山大学）による日本教育工学会の歴史と組織，さらには研究分野についての紹介が行われた．学会の方向として，AECT をはじめとする各国学会との協力を推進する国際化の方向と，若手研究者育成の方向が説明された．鈴木副会長（熊本大学）は JSET の特徴ある SIG のねらいと構成について話され, 日本の研究内容について説明を行った. 影戸国際交流副委員長（日本福祉大学）は日本の ICT 教育を支える 3 つの組織，JSET，JAET, JAPET & CEC の相互連携と，大学における国際連携プロジェクトまた一人一台の K-12 の動向について具体的な事例を上げ,「日本における教育の情報化の今」を紹介した．会場には各国の連携組織代表者が参加し，国際連携について論議を行った.



JSET セッションで説明する山西会長

AECT 年次大会の特徴：日本の学会形式とは少し異なり，07:00 に始まり，21:00 終了のスケジュールで，夕方までシンポジウムを含む発表が続く．朝食会も，多くの著名研究者の席を回りながらとる形式が準備されている．夕方からは連携組織国の交流会が開催され，山西会長も JSET についてプレゼンテーションを行った．ICT 研究に力を入れる大学によるレセプションも企画されていた．アメリカとの連携を強め，多くの大学院生を送っている KSET（韓国教育工学会）など独自の昼食会をもち，留学生支援と各国交流に力を入れていた．中国も同じような動きが見られた．

シンポジウムでは，鈴木副会長が登壇し，日本の教育工学と今後の研究者のあり方が示された．

シンポジウムでの鈴木副会長

今後の AECT との連携：年次大会への会長参加が確認された．また 2016 年 06 月 18 日（土）開催の JSET 主催「国際シンポジウム」にはアメリカの動向とアジアについて AECT から講演を行ってもらう予定である．さらに JSET と連携で行われる国際会議 ICoME2016 にも著名な米国研究者の基調講演が計画されている．

世界同時に進みつつある ICT 教育の推進, インストラクショナルデザインの具現化など世界との日常的な情報交換が日本の教育工学研究の発展には必要不可欠であることを強く感じた AECT 参加であった．学術交流協定の締結で，会員費や国際会議への参加費が半額程度になった．若手研究者の活躍の場として期待したい．

AECT（Association for Educational Communication and Technology）：1923 年設立　1983 年より現組織．AECT の歴史は古く，1923 年米国教育協会（National Education Association）内に視聴覚教育部門を設立したことに始まる．その後 1971 年から 82 年までメディアの変遷，時代要請を受け，いくつかの改編を経て現在に至る．現在の会員数は約 2,500 名で高等教育研究者が中心である．
http://aect.site-ym.com/?page=aect_in_the_20th_cen

国際交流員会副委員長　影戸　誠（日本福祉大学）

日本教育工学会第 16 期第 5 回理事会　議事録

日　時：平成 26 年 11 月 21 日（土）14:40〜17:10
場　所：JAPET&CEC　会議室
出　席：
（理事）山西潤一会長，鈴木克明副会長，中山　実副会長，吉崎静夫副会長，稲垣　忠，木原俊行，
久保田賢一，堀田龍也，前迫孝憲，益子典文，美馬のゆり，村上正行，山内祐平
（監事）永野和男
（総務委員会）北澤　武，姫野完治
（事務局長）赤松伊佐代　（合計 17 名）

1．前回の理事評議員会・総会議事録の承認について
第 16 期第 4 回理事・評議員会議事録について原案が提示され，承認した．

2．新入会員の承認について
2015 年 09 月 02 日から 2015 年 11 月 11 日の会員の移動状況について報告があり，承認した．2015 年 11 月 21 日現在の総会員数は，2,944 名である．

3．各種委員会から
（1）編集委員会
論文誌発行状況の報告があった．また，J-STAGE に Educational Technology Research 掲載が認められたことが報告された．
（2）研究会委員会
2015 年研究会開催計画を一部日程修正の上承認した．研究会と SIG 研究会の連携方法案について一部修正し承認した．また，他学会との連携による開催について並行開催のメリットを生かしていくことを確認した．
（3）企画委員会
冬の合宿研究会の開催，産学共同セミナーの開催，2016 年 06 月 18 日の総会シンポジウムは大阪で開催されること，テーマ等の計画について検討中である旨が報告された．
（4）大会企画委員会
第 31 回全国大会の参加者が 1,129 名であったこと等の報告があった．2017 年度の第 33 回全国大会は，島根大学を会場として 2017 年 09 月 16 日（土）〜18 日（月・祝）に行うことを承認した．
（5）国際交流
AECT に 3 名の理事が参加された旨の報告があった．また，AECT で発表した会員 3 名より大会参加費の補助について申請があったことが報告され，大会参加費の補助は今後も継続することを承認した．
（6）広報委員会
ニューズレターは校正段階に入っている旨の報告があった．
（7）SIG 委員会
SIG04「教育の情報化」から依頼のあった ICT ファシリテーター養成講座について，今年度の認定証は SIG 委員会の名前で出すこと，認定証の本学会のロゴ使用を承認した．
（8）選書委員会
第 2 期第 7 巻，第 12 巻については 11 月 20 日に発刊されたとの報告があった．

4．総務・会計
（1）中間決算報告
11 月 07 日に会計の中間決算が行われたことの報告があった．
（2）将来構想ワーキンググループの設置
総務委員会の中に学会の将来構想を検討するワーキンググループを設置することを承認した．
（3）役員選挙について
今後の役員改選の方法について，選挙改革委員会に検討を依頼していることが報告された．

5．その他
（1）以下の共催および協賛依頼を承認した．
2014 年度事業報告及び後援継続のお願い（情報オリンピック日本委員会　より）
高校教科「情報」シンポジウムに係る協賛名義の使用について　申請
（情報処理学会情報処理教育委員会　より）
（2）今後の理事会日程を確認した．

日本教育工学会第 16 期第 6 回理事会　議事録

日　時：平成 28 年 01 月 16 日（土）～23 日（土）
場　所：電子メールによる
出　席（参加）：
（理事）山西潤一会長，鈴木克明副会長，中山　実副会長，吉崎静夫副会長，稲垣忠，植野真臣，加藤　浩，木原俊行，久保田賢一，黒上晴夫，向後千春，三宮真智子，寺嶋浩介，永岡慶三，永田智子，南部昌敏，平嶋　宗，堀田龍也，前迫孝憲，益子典文，美馬のゆり，村上正行，村川雅弘，森田裕介，山内祐平
（監事）赤堀侃司，永野和男
（総務委員会）北澤　武，姫野完治
（事務局長）赤松伊佐代　（合計 30 名）

1. 前回の理事会議事録の承認について
第 16 期第 5 回理事会議事録について原案が提示され，承認した．

2. 新入会員の承認について
2015 年 11 月 12 日から 2016 年 01 月 09 日の会員の移動状況について報告があり，承認した．結果，2016 年 01 月 23 日現在の総会員数は，2,959 名となった．

3. 各種委員会から
(1)　編集委員会
論文誌編集進捗状況の報告があった．
(2)　研究会委員会
12 月研究会についての報告と，今後の研究会開催テーマについて経過報告があった．
(3)　企画委員会
2015 年度産学協同セミナーの最終報と，夏の合宿の第一報，第 32 回通常総会及びシンポジウムの案内の第二報があった．
(4)　大会企画委員会
新大会企画委員会（案）の提案がなされ，承認した．
(5)　国際交流
ICoME2016 との連携について，及び，AECT 参加者についての報告があった．
(6)　広報委員会
ニューズレター212 号（02 月 04 日原稿〆切）の台割案の提案があり，承認した．また同時に配付資料に基づく原稿執筆の依頼があった．
(7)　選書委員会
教育工学選書第 2 期の進捗状況について報告があった．

4. 総務・会計
(1)　第 2 期選書の販売価格について
第 2 期選書出版価格について報告があった．
(2)　大学評価学位授与機構「分野別質保証アンケート」への回答
アンケートに回答した旨，報告があった．
(3)　将来構想 WG の開催（2015 年 12 月 26 日および 28 日）
構成員と方針について報告があり，承認した．

5. その他
(1)　以下の協賛・後援依頼を承認した．
・「Joint 8th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 17th International Symposium on Advanced Intelligent Systems」（SCIS&ISIS2016）（日本知能情報ファジィ学会）
(2)　連絡事項・郵送物を確認した．
(3)　今後の理事会日程を確認した．

最近の論文投稿数と採択率

本学会の論文誌，英文誌に投稿されました論文の数と採択率を以下に示します．
ただし，2015 年度は，2015 年 04 月から 12 月までに投稿された数となります．　　編集長　吉崎静夫

論文誌（特集号以外）

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	査読中	採択率（%）
2013 年度	論文	36	12	22	2		33
	教育システム開発論文	1	1				100
	教育実践研究論文	32	5	19	8		16
	資料	13	4	8	1		31
	寄書	8	2	6			25
2014 年度	論文	34	4	28	2		12
	教育システム開発論文	4		4			0
	教育実践研究論文	25	6	18	1		24
	資料	12	7	4	1		58
	寄書	1	1				100
2015 年度	論文	20		4		16	0
	教育システム開発論文	1		1			0
	教育実践研究論文	16		6		10	0
	資料	10	1	2		7	10

論文誌（特集号）

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	査読中	採択率（%）
2013 年度	論文	5	2	2	1		40
	教育システム開発論文	3	1	1	1		33
	教育実践研究論文	10	4	3	3		40
	資料	6	4	2			67
	寄書	3		2	1		0
	総説・展望	2	2				100
2014 年度	論文	6	1	5			17
	教育システム開発論文	11	3	7	1		27
	教育実践研究論文	16	4	10	2		25
	資料	3	2	1			67
	寄書	3		3			0
	巻頭言・総説	2	2				100
2015 年度	論文	6	3	2	1		50
	教育システム開発論文	1			1		0
	教育実践研究論文	17	6	10	1		35
	資料	5	1	4			20
	寄書	1			1		0
	巻頭言・総説	2	2				100

論文誌（ショートレター）

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	査読中	採択率（%）
2013 年度	ショート	121	51	64	6		42
2014 年度	ショート	115	42	64	9		37
2015 年度	ショート	95	34	58	3		36

英文誌

投稿年度	種別	投稿数	採択	返戻	取り下げ	査読中	採択率（%）
2013 年度	Paper	2		2			0
	Translation	16	15	1			94
2014 年度	Paper on Educational Practice Research	1		1			0
	Translation	9	8	1			89
	Short Note	1		1			0
2015 年度	Paper	1		1			0
	Translation	7	6		1		86
	Short Note	1				1	0

2016 年度会費納入のお願い

2 月中旬に，2016 年度（2016 年 04 月 01 日～2017 年 03 月 31 日）の会費請求書をお送りしました．クレジットカード支払い，または，その時に同封しました郵便振込用紙により年会費をご送金くださるようお願いいたします．

年会費の年額は右記のとおりです．

本学会では，年会費を納入した会員のみに論文誌を発送しています．2015 年度会費未納の会員が会費を送金された場合には後日まとめて発送します．

◆会員種別と年会費・受けるサービス

（入会金 1,000 円）

会員種別	年会費	論文誌	増刊号	英文誌	JSET
正会員	9,000 円	1	1	1	1
准会員	5,500 円		1		1
学生会員	5,500 円	1	1	1	1
維持会員	50,000 円/口	3	3	3	3
名誉会員	無　料	1	1	1	1

（注）論文誌：和文/年 4 回発行
増刊号：ショートレター特集/年 1 回発行
英文誌：英文/年 1 回発行
JSET ： ニューズレター/年 6 回発行

◆学生会員について

- 学生会員は正規の入学者で，研究生は該当しません．
- 学生会員の所属機関は，必ず大学名となります．所属機関が大学以外の場合には，正会員または准会員となります．
- 学生会員は，資格条件（大学名，学部名／研究科名，指導教員名，卒業見込／修了見込の年月）を必ず連絡してください．
- 学生会員として資格条件をご連絡いただかないで，年会費 5,500 円を納入された方は，とりあえず准会員に変更させていただいております．

2016 年度研究報告集の予約購読（年額 3,500 円）について

本学会では，研究会を 5 回開催し，研究報告集を発行しております．この研究報告集は事前に代金 3,500 円を送金された会員に配布しています．事前に 3,500 円をご送金ください．

研究会当日，会場で受領できます．不参加の場合は研究会終了後に郵送いたします．年度の途中でご送金いただいた場合は，次に開催される研究会終了後に，それ以前の報告集を郵送します．

代金後納の場合と非会員の場合は，以下に販売を委託しています．代金：5,000 円

・株式会社毎日学術フォーラム　販売業務課　丸山由貴
・〒100-0003　東京都千代田区一ツ橋 1-1-1　パレスサイドビル 9 階
・TEL. 03-6267-4550 FAX. 03-6267-4555　E-mail. maf-sales@mynavi.jp

第 31 回全国大会講演論文集の購入について

昨年 9 月に電気通信大学で開催された第 31 回全国大会の論文集に残部があります．購入をご希望の方は，学会事務局（office@jset.gr.jp）にメールで在庫を確認の上，以下の金額をご送金ください．ご入金を確認後お送りいたします．

郵便振込用紙の通信欄に「第 31 回全国大会講演論文集」とご明記ください．特にご要望がない場合，請求書・領収証等を発行しておりませんので，必要な方はその旨ご記入ください．

・第 31 回全国大会講演論文集冊子
　1 部 9,000 円（論文集冊子代 8,000 円＋送料 1,000 円）
・第 31 回全国大会講演論文集 CD-ROM
　1 部 4,500 円（論文集 CD-ROM 代 4,000 円＋送料 500 円）
・第 31 回全国大会講演論文集冊子と CD-ROM セット
　1 部 11,000 円（論文集冊子と CD-ROM 代 10,000 円＋送料 1,000 円））

新入会員

（2015 年 09 月 02 日～2016 年 01 月 09 日）
57 名（正会員：35 名，准会員：7 名，学生会員：15 名）

■正会員（35 名）
福永栄一（大阪成蹊短期大学）
古藤みどり
（大阪信愛女学院短期大学）
渡邉　彩
（新潟こども医療専門学校）
佐藤賢輔（共愛学園前橋国際大学）
菊島正浩（開智国際大学）
中村勝一（福島大学）
佐多正至（北海道大学）
野村淳一（星城大学）
三谷新太郎（三谷教育研究所）
永禮敏江（姫路獨協大学）
神林裕子
（札幌市立あいの里西小学校）
山城ヒトシ（安心院中学校）
有満麻美子（立教女学院短期大学）
大島志拓（慶應義塾大学大学院）
中村光雄
（東京都清瀬市立清明小学校）
島崎　敢（国立研究開発法人防災科学技術研究所）
杉本義行（成城大学）
山口敏和（江戸川大学）
豊場沢子（独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院附属看護専門学校）
山口眞希（金沢市立小坂小学校）
國枝佳明（東京海洋大学）
中牟田宴子
（東京大学大学院工学系研究科）
松本章代（東北学院大学）
藤井厚紀
（福岡工業大学短期大学部）
村井明日香（桜美林大学）
松下毅彦（広島大学）
越田凌介（北海道帯広市立南町中学校，北海道教育委員会）
松島るみ
（京都ノートルダム女子大学）
後藤泰博（品川区立大原小学校）
美馬秀樹（東京大学）
武田知子（国際基督教大学）
白木厚司（千葉大学）
影戸悠一（株式会社ウフル）
堀江竜也
（大阪府立寝屋川高等学校）
松田紀子（大阪工業大学）

■准会員（7 名）
金塚　敦（株式会社 FDC）
藤澤敬子
川崎悦子（日本医療機能評価機構）
長田恵理子
（堺市立登美丘南小学校）
片脇育生
江里　晃
（実践女子学園中学高等学校）
弓野憲一（弓野教育研究所）

■学生会員（15 名）
武田知也
（京都工芸繊維大学大学院）
石黒裕次郎（青山学院大学大学院）
石野未架（大阪大学大学院）
遠藤志乃（名古屋大学大学院）
工門真人
（早稲田大学，人間科学部）
久松慶子（鳴門教育大学大学院）
藤澤広美（広島大学大学院）
大西雄斗（佛教大学大学院）
前田淳司（鳴門教育大学大学院）
長濱澄　（早稲田大学大学院）
沼田真一（早稲田大学大学院）
福士晶知（鳴門教育大学大学院）
手嶋　香（鳴門教育大学大学院）
中村雅子（大阪大学大学院）
保田江美（東京大学大学院）

◎学会日誌

２０１６年

・２０１６年０３月０５日（土）
研究会「ICT を活用した学習支援環境・基盤」（香川大学）

・２０１６年０３月０７日（月）
大学教員のためのＦＤ研修会（ワークショップ）「大学授業デザインの方法－1コマの授業からシラバスまで－」（東京工業大学）

・２０１６年０３月１３日（日）
特別企画（実践研究活性化）セミナー（岐阜大学）

・２０１６年０３月１９日（土）
産学協同セミナー「デジタル教材・学習記録の規格標準化の動向と今後教育工学の立場から学習記録データの活用を考える」（株式会社内田洋行　新川オフィス）

・２０１６年０５月２１日（土）
研究会「高等教育における教育方法･FD･IR」（大阪大学）

・２０１６年０６月１８日（土）
第３２回通常総会及びシンポジウム
（大阪マーチャンダイズビル）

・２０１６年０７月０２日（土）
研究会（鳴門教育大学）

・２０１６年０９月１７日（土）～１９日（月・祝）
第３２回全国大会（大阪大学）

◎国際会議の案内

２０１６年

・SITE 2016
http://site.aace.org/conf/
(3/21 – 25, Savannah, GA, USA)

・ACHI 2016
http://www.iaria.org/conferences2016/ACHI16.html
(4/24 – 28, Venice, Italy)

・eLmL 2016
http://www.iaria.org/conferences2016/eLmL16.html
(4/24 – 28, Venice, Italy)

・EdMedia 2016
http://www.aace.org/conf/edmedia/
(6/27 – 30, Vancouver, Canada)

・EDM 2016
http://www.educationaldatamining.org/EDM2016/
(6/29 – 7/2, Raleigh, NC, USA)

・HCI International 2016
http://2016.hci.international/
(7/17 – 22, Toronto, Canada)

・ETWC
http://seminars.unj.ac.id/etwc/
(7/31 – 8/3, Bali, Indonesia)

・AECT INTERNATIONAL CONVENTION
http://aect.site-ym.com/?futureevents
(10/17 – 21, Las Vegas, USA)

・E-Learn 2016
http://www.aace.org/conf/elearn/
(11/14 – 16, Washington, DC, USA)

お問い合わせ先 E-mail

● 論文投稿に関するお問い合わせ
編集委員会 editor@jset.gr.jp

● 研究会の開催についてのお問い合わせ
研究会事務局 study-group-core@jset.gr.jp

● 全国大会の開催についてのお問い合わせ
大会企画委員会 taikai2016@jset.gr.jp

● 合宿研究会やシンポジウムの開催についてのお問い合わせ
企画委員会 kikaku@jset.gr.jp

● ニューズレター編集に関するお問い合わせ
広報委員会 kouhou@jset.gr.jp

● その他のお問い合わせ
学会事務局 office@jset.gr.jp

広報委員会

担当副会長　：中山 実（東京工業大学）
広報委員長　：堀田 龍也（東北大学）
広報副委員長：山内 祐平（東京大学）
幹事：高橋 純（東京学芸大学）
委員：池尻 良平（東京大学）
石塚 丈晴（福岡工業大学短期大学部）
冨永 敦子（公立はこだて未来大学）
脇本 健弘（横浜国立大学）

E-mail：kouhou@jset.gr.jp

発行所●
日本教育工学会事務局
〒107-0052
東京都港区赤坂1-9-13
三会堂ビル8階
TEL 03-5549-2263
FAX 03-5575-5366
E-mail：office@jset.gr.jp
http://www.jset.gr.jp
郵便振替00180-2-539055

日本教育工学会ニューズレター
No. 212
2016年２月19日

発行人●会長 山西 潤一（富山大学）